



『子どもの人権とおとなの在り方を考える』

常磐会短期大学 教授 ^{しめだ} 卜田 ^{しんいちろう} 真一郎 さん

人権保育専門講座8-①では、常磐会短期大学教授の卜田真一郎さんに「子どもの人権とおとなの在り方を考える」と題して、ご講演いただきました。今回は、ご講演のなかで紹介された「ユマニチュード」の概要を掲載します。



1. ユマニチュードとは

ユマニチュードは、フランス語で「人間らしくある」という意味の言葉です。人は他の誰かから尊重されることで「人間らしさ」を獲得できるという哲学を原点に、ユマニチュードの技術は体系化されました。ユマニチュードでは「あなたのことを大切に思っています」というメッセージを、相手が理解できる方法で伝えます。そして、ユマニチュードは、ケアをする人と受ける人との間のコミュニケーション量を格段に増やします。これは、高齢者だけでなく、ケアを必要とするすべての人が、その対象です。安心や喜び、愛を伝え、絆を結ぶ技法です。ユマニチュードの技法は、介護の現場でよく使用され「ベッドに寝たきりの人が立ちあがった」「ケアを拒んでいた認知症の人が、『ありがとう』と言って笑った」などの効果の事例があります。ユマニチュードは、保育にも有効です。

◎ ユマニチュードの技術の基本「4つの柱」

※同時に複数を実施する。

見る	相手が安心できるように水平に目を合わせ、正面から顔を近づけ、見つめる時間を長く取る。
話す	ポジティブな言葉を用いて、優しいトーンで、穏やかに話しかける。言葉を絶やさない。
触れる	相手が驚かないように、手や顔など、敏感な部分は避け、肩や背中などから優しく触れる。
立つ	立つことで、筋力の低下などを防ぎ、血液循環の改善、肺の容量を拡大する効果が期待できる。

◎ ユマニチュードの5つのステップ ～相手に優しさを伝える～

① 出合いの準備 [訪問を伝える] ……例: 3回ノックして3秒待つ。また3回ノックして3秒待つ。
② ケアの準備 [相手との関係性を築く] ……例: ケアの話ではなく「あなたに会いに来た」というメッセージを伝える。
③ 知覚の連結 [心地よいケアの実施] ……例: 見て、触れて、話しながら心地よいケアを行う。複数を同時に。
④ 感情の固定 [相手の記憶に残す] ……例: ケアが心地よかったことを感情記憶に残す。
⑤ 再会の約束 [次回のケアへの準備] ……例: 自分に優しくしてくれた人がまた会いに来てくれる喜びを残す。

2. なぜ、保育で「ユマニチュード」なのか

保育者は、子どもとかわるとき「ケアをする自分にとって都合がいいように、子どもへのケア内容を決定していないかどうか」が問われます。ケアする側は、権力を持っていて、つい子どもを管理するという発想に陥ることがあります。「私は、あなたを管理する」という考えを持つ限り、相手との間に生じるのは力関係です。ユマニチュードの技法から考えると保育者は、今持っている権力を脇に置かなければなりません。そうでないと適切な保育に携わることができません。

(参考文献: イブ・ジネスト、ロゼット・マレスコッティ著 2016 『ユマニチュード』という革命)

ユマニチュードは、保育の基本と重なる部分があります。保育において当たり前を示していますが、保育の現場で、この当たり前のことができなくなっていることがあるのです。保育者は、ユマニチュードで大切にしていることを意識して子どもたちにかかわると、子どもたちの反応が変わってくるのを実感するはずです。

ユマニチュードの考え方は、ケアをする人の人権を守ることが土台となっています。ユマニチュードの技法から保育を具体的に考えると「園での生活は、子どもにどのように認識されているのか」「保育者のかかわりは、子どもにどのように認識されているのか」を深く理解することから保育をはじめめる必要があることに気づきます。保育者は、子どもの現実を捉え、子ども自身の人権感覚をいかに育むかを明確にする必要があります。そのために、保育者自身の視点の確かさが問われます。

【参加者のアンケートより】

ユマニチュードの実際の動画で、看護師がノックをせずに部屋に入ったり、高い視線から話しかけたりすることで、患者と意思疎通が出来ず、不信感につながっている場面がありました。私は、0歳児の子とかわるときに、子どもと視線を合わせず、後ろから話しかけたり、体に触れるときに当たり前のように確認もせずにかかわることがありました。子どもたちに対して、おとな主導のかかわりになっていなかったかどうかを考えさせられました。

